

実

家の改修工事を始めるのが、初め四月からだつたのが、五月、六月と一月ずつ遅れていき、七月になつてようやく始まることになった。別にいつまで引つ越さねばならぬという期限があるわけでもない、転校する家族もいないのでどうでもいいことなんだが、窓口で名前を呼ばれるのをただ待っているような中途半端な気分は、少しばかり気重りがした。

実家は、落語教室の稽古場でもあるので、ずるずると工事開始が遅延したことで、とりあえず代替稽古場をどうするかという差し迫つた問題を先送りできたのだが、同時に先の中途半端の気分は増幅していった。

よく稽古場を見に来てくれる常連さんが見かねて、稽古ぐらいいならうちを使つてもいいと言つてくれた。それはとてもありがたい申し出で、一気に解決に向かつたかのように思えたのだったが、どう考えても高齢者にとっては過重な負担である。せいぜい月に一度でも使わせてもらえたなら十分とすべきだろう。

今日日のことゆえ、オンラインでならぬこともなからう。工事が終わるまでは公演のみで稽古休止もやむなしか。いつそのこと家庭教師になつて教室生宅に乗り込むか。などなど、どれも今ひとつ気乗りのしない案ばかりが浮かんで消えた。

ところが、ついこの間のことである。市内の某サ-

ビス付き高齢者向け住宅から落語会の依頼が入つたので、下見を兼ねて訪れた。仲介してくれた人の話によると、テレビか何かで塾生の落語を入所者がとても楽しそうに見ているので、それならいつそのことここで落語会開いたらという話になつたそう。

所長に施設を案内してもらいながら、実家の稽古場の様子を伝えたら、
「いいですねえ。うちもそんなふうにな所の人や学校帰りの子どもたちが気楽に寄つて行くような場にしたいいですよ」

と、所長が勢いよく話し始めた。ここでぼくは、稽古場がもうすぐ使えなくなるので困っているのだ、というのをちよつとだけ言つた。いや、ほとんど言わなかつた。隠すつもりはなかつたが、それでここに来たのか、と思われるのも違うからだ。いや、それほど大きく違わない。ちよつと小狡く立ち回つた。

「じゃあ、落語会というより、もつと気楽な形で、ここで稽古させてもらえませんか。イベントとして集めるのじゃなくて、来たい人どうぞみために」

「ああ、それはうちとしてもうれしいです。ぜひ、お願いします」

土俵でするつと体が入れ替わつたみたいに稽古場が現れた。

北海道への旅、三度目
木幡智恵美

12

翌日、二人とも体調に変化なく普通に起きた。夫の左わき腹、私の右ふくらはぎの痛みは前日と同じ程度で、それ以外に不調はない。いつものように早朝の散歩に出た。朝食は、荷物に入れていたキュウリと魚肉ソーセージ、冷凍していたご飯で済ませ、すぐに買い出しに行く。何せ、野菜室は半分残つたキュウリだけだ。帰つてすぐ、買つてきた食材でポテトサラダ、麩の煮物を作り、鶏肉を砂糖醤油に漬け込む。そして、パン生地をこねて一次発酵のため縁側の暖かい場所に置いた。

祝日であるこの日、子どもたちをバス祭に連れて行く予定を立てていた娘が、私たちの様子を見に家に寄つた。車から降りて来た娘や孫たちは、しばらく車の後ろの部分の壊れた箇所を眺める。鉄板がはがれた部分を支えるようにゴミ箱をあてがっているのが余計痛々しく見える。夫は、「ほら」と運転手席に置いていた吹っ飛んだナンバープレートを見せた。「明日は二人とも絶対に病院に行つてよ」と娘は言いながら家の中に入った。

少しして、バイクの音が聞こえて来た。「雄二だ」と言つて玄関に出ると、一年前一緒になつた連れ合いも降りて来た。来なくていいと言つたのに、心配で来てくれたのだ。娘や息子に事故の詳細を伝えると、息子も「明日は病院に行けよ」と言う。

娘がバス祭の帰りに米を七俵取りに行くというので、「子ども三人連れてじゃ大変でしょ。付いて行こうか」と聞くと、「そうしてくれたら助かるけど、身体大丈夫」と逆に尋ねてくる。「大丈夫。予定がすっかり無くなつたし」と言つて付いて行くことにした。息子は帰り際、「病院には絶対に行けよ」と念押しし、二人バイクにまたがり走り出した。

バス祭会場では、消防団員の吹奏楽演奏だけを聞き、すぐに米を受け取りに平田へ向かつた。午後は雨という予報で、できればそれまでに取りに行きたかつたのだ。いつも米は娘の同僚の実家がある近くの営農組合さんから購入していて、その日はたまたまその同僚も実家に来ていた。そこで昼食をいただくことになり、食べながらまた事故の話をする羽目に。

夕方、壊れた車は引き取られ、代車が来た。前に乗つていた軽乗用車と同じ車種だ。



30代フリーター 朝日新聞の東京都知事選の情勢調査によると、小池百合子が先行し、蓮舫が追う展開となっている。

年金生活者 無党派層は4割強が小池を支持しているのに対し、蓮舫は2割弱しかない。ダブルスコアの開きがあり、実際の得票差もそれに近くなる可能性がある。

30代 小池はカイロ大卒という虚偽の学歴を公表したとして、公選法違反の疑いで刑事告発されている。

年金 有権者はそれを小池を落選させなければならぬほど重大な問題とはとらえていないことを調査結果は示している。朝日新聞が選挙情勢調査と並行して実施した世論調査にもそれがあらわれている。小池都政を「大いに評価する」6%、「ある程度評価する」63%で、合わせると約7割におよぶ。

30代 小池が2016年の初当選のさいに掲げた公約「7つのゼロ」の達成度を東京新聞（6月16日）が検証している。それによると、「待機児童」は

ほぼゼロを、「ペット殺処分」はゼロを達成した。「都道電柱」と「満員電車」は改善されたが、ゼロにはなっていない。「介護離職」は逆に増加し、都職員の「残業」は増えた。

年金 これなら「ある程度評価」が多数になるのかもしれない。0か100かで考える有権者は少ない。

調査にあらわれた小池への「評価」は、対立候補の蓮舫が押し上げた可能性がある。彼女は立候補表明の記者会見で「小池都政をリセットする」と語っていたのに、その後の公約発表の会見では「都民の安心安全を守ってきた政策は維持をして発展させる」と事実上の「リセット撤回」を表明した。批判を気にして言うことを変える候補者からは、確固とした理念もビジョンも伝わってこない。蓮舫を「頼りない」と感じ、「やっぱり小池」と考えた有権者は少なくないはずだ。

30代 ふたりのその差はどこから来ているんだ。

年金 吉本隆明は「大衆の原像」を自

は、党派あるいは官僚の論理に対抗する国民あるいは都民の生活の論理という図式の中にわが身を置くことに成功し、選挙での勝利を勝ち取った。

30代 蓮舫にはそれに匹敵するものがない？

年金 小池百合子は日本の大多数の女性政治家が持つていないものを持つている。それは「女性だから」とか「女性なのに」といったことを有権者にほとんど感じさせないことだ。だから、「女性初」とか「女性の代表」といったことを売り物にする必要がない。性とは関係なく一政治家として有権者の前に立つことができる。

そうした女性政治家は他の先進諸国では珍しくない。ドイツのアンゲラ・メルケル、英国のマーガレット・サッチャーらを思い浮かべれば、思い当たるはずだ。そんな政治家を日本で探すのは難しい。小池は稀有な存在と言わなければならない。その点で日本の大多数の女性政治家は蓮舫を含め、小池におよばない。

ニュース日記 928
中村 礼治

都知事選について

らに繰り込むことを思想の課題とした。それは政治にも当てはまる。大衆の原像とは、ふだんは政治や芸術、学問といった日常から遠いことについては考えず、自分や自分の家族など身近な存在の生活のことだけを考えて暮らす人間の像を指す。

それを「繰り込む」とは、それを啓蒙や指導の対象とするのではなく、逆にそれによって啓蒙、指導される位置に自らを置くことを意味する。それが時として「大衆迎合」とか「ポピュリズム」と呼ばれ、マイナスの評価をされるのは、それだけ実行が困難であることを示している。

だが、実行されれば、予想外の力を発揮する。自民党を倒した旧民主党の「国民の生活が第一」も、大方の予想を裏切って米大統領の座を勝ち取ったトランプの「アメリカ・ファースト」も、自らの所属する自民党に反旗を翻して都知事に初当選した小池百合子の「都民ファースト」も、大衆の原像をスローガン化したものだ。これら3者

しかし、それは彼女たちの責任ではない。日本のジェンダーギャップが根深いことが理由であり、それが小池を稀少な存在にしている。

30代 元朝日新聞記者で政治ジャーナリストの鮫島浩が「政権交代の機運がしばみつつある」と書いている（S A M E J I M A T I M E S、6月25

日）。「都知事選の立憲敗北が自民復活を後押しする」と。その根拠として、読売新聞の世論調査結果の変化をあげる。5月の調査では、次期衆院選後に望む政権として「自民党中心の政権の継続」と「野党中心の政権に交代」がともに42%と拮抗していたのに、今月の調査では「継続」が46%と、「交代」の42%を上回った。

年金 その流れが生まれているとすれば、都知事選でブレて底の浅さをさらけ出した蓮舫が作り出したと言わなければならない。「小池都政をリセットする」と言っていたのに、3週間後には「東京全体をもつとよくする」と言い出し、「全否定」から「継承発展」に転換したとられかねない。ブレ方は、結局この候補者は自分というものがなく、立憲の看板に過ぎないというイメージを広げただけに過ぎない。その結果、立憲はブレる候補者しか送り出せなかった政党という烙印をおされ、それが自民党にとってプラス要因として働く可能性がある。